

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100355		
法人名	有限会社 栄友		
事業所名	グループホーム ゆう Aユニット		
所在地	上川郡東川町北町4丁目9番26号		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173100355&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、大雪山を遠望でき、公園に隣接した立地で広い敷地に畑や遊歩道を設けている。利用者の自立を支援したいという施設長の思いから、リハビリに力を入れており、平行棒を設置し、歩行訓練に力を入れている。また、各居室にトイレを設置し、誘導によるトイレ介助をして、自立を促している。各居室には出窓が設置され、窓の外には実なる木を植え、その実を秋に収穫することを利用者は楽しみとしている。また、なるべく無農薬の野菜を使用し、朝は玄米食にするなど、利用者にとって良いことはできるだけ取り入れようとする、意欲的な事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<食材へのこだわりと自立へ向けた支援>
地元農家より直接お米や新鮮で無農薬の野菜を買い入れたり、調味料の味噌を地元生産品にこだわる等地産地消に取り組んでいると共に地域への貢献に努めている。また、一人ひとりの生活歴や力を活かして、職員と一緒に畑で野菜づくりや花壇の手入れ、収穫した野菜を調理して食事に供するなどの支援や遊歩道散策や外気浴等で戸外に出かける機会を設け、身体機能の維持・向上に努めている。

<行政との連携・協力体制>
2ヶ月毎に開催する運営推進会議に町担当者が出席し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えていくと共に町主催の写真甲子園等のイベントや地域の災害時の協力等行政と連携しながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します		
項目		取り組みの成果 該当するものに印	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングや常日頃から理念に触れ、毎日の生活の中で職員と確認し合っている。申し送りノートを活用し、小さな気づきを全職員が共有し、細部にわたって理念に沿った実践が出来るように努めている。	事業所独自の理念をつくりあげ、ミーティングや日常業務を通じて話し合い、理念を共有し、その実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事には、地域の方々にも参加して頂き、地域の行事にも参加している。又施設で食す米は近所の農家から分けて頂いている。時々色々な方から野菜等頂いている。	夏祭りを開催し、地域の方々に参加の呼びかけや近隣の子供達が遊びに訪ねて来たり、近所の方から野菜等収穫物をもらうなど、地元の人達との交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方に対して、対応方法等説明を行っている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町職員、民生委員、家族、地域住民、職員を構成員として2ヶ月に1度開催されています。会議では、事業所の運営状況や事故報告、行事案内などがなされ、活発な意見交換を通して運営に活かしています。	2ヶ月毎に開催する運営推進会議に町担当者が出席し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えていると共に町主催の写真甲子園等のイベント協力等行政と連携しながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町職員とは運営推進会議や町役場に出かけ、ホームの相談等やサービスの質の向上についても話し合っている。	町担当や民生委員とは、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏者に対する見守りと職員間の声かけを徹底して、玄関施錠を撤廃し、身体拘束廃止に取り組んでいる。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、内部研修を通じて管理者及び職員の共有が行われ、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けており、職員間に於いても見過ごされる事がないように防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、学んだ事を活かせるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明や、サービスの内容を説明し理解と同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、また、重要事項説明書に苦情窓口を記載しています。また、家族の来訪時や運営推進会議で家族からの意見要望をお聞きし、利用者からは日常の関わりのなかで、言葉や行動を把握して、運営に反映させています。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置し、市町村等の相談窓口を掲示している。	今後は、運営推進会議や行事等の際に、さらに多くの家族の参加が得られるように働きかけを期待します。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや、毎月のスタッフ会議、定例会議で職員の意見や提案を聞き、サービスの向上につなげている。	定例会議やスタッフ会議で、意見や要望、提案を聞くよう機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入により、各職員の得意とする分野、努力や成果等を把握し、意欲を持って働いてもらえるように努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や知識、技術レベルに合わせた外部研修、内部研修を実施し、サービスの質の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や包括連絡会議に参加し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時、利用者も緊張や不安が強く、職員との信頼関係も築けていない為、施設内で迷うことのないよう常に目を配り声かけを多くし、安心出来る場所である事を確認して頂く。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申込があると出向いて面接し、家族に対しても何に困っているか聞き、信頼関係を深め、必要な時期に入所できるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を伺い、必要とされている事に対し、できる限りの支援に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員が自ら助け合う家族的雰囲気大切にしている。入居者は豊かな人生経験、知識を多く持ち、職員が教えられる事も多い。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事に参加して頂き、本人と一緒に過ごして頂きながら、悩みや要望を聞いている。変わった事が有れば電話連絡をし、対応などを話し合っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃のコミュニケーションの中で、なじみの場所の把握に努め、ドライブに訪れたりしている。以前住んでおられた家の近所の方の面会もある。	ホーム主催の夏祭りや知人・友人の訪問支援等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく暮らしていける様に、職員が間に入りコミュニケーションを取っている。又孤立しない様に利用者と同関わり合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や依頼があれば適切に対応する。			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中での希望、意見はケアの中でくみとり、本人本位で対処している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で情報の共有が行われるよう取り組んでいる。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを、本人や家族より聞き、ホームの暮らしに生かしている。入居される迄、サービス利用の経過や有無も聞いている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、昼、夕の申し送り、一人一人のケース、記録、バイタル、排泄等、心身の状態を確認し、1日の変化等を把握している。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議や定例会議で職員の意見や、家族、本人の要望を取り入れ、計画作成者が介護計画を作成するとともに、モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見やモニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の日々の状態や状況をみてスタッフの間で話し合い、常に利用者の立場に立って考え行動している。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズも違えば、支援内容もプラン内容も違うため、個々の利用者に向けた柔軟な対応を心がけている。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加して頂き、諸問題を検討し交流を図っている。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については利用者、家族の意向を尊重した上で、かかりつけ医への受診を支援している。又かかりつけ医との連携を図り、緊急時でも適切な医療が受けられる。	看護師が常駐し、医師の往診等で医療体制がとられており、年々、重度化する利用者にも対応できる体制が取られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には利用者がかかりつけ医に相談を行っている。利用者が体調不良の場合は、職場看護師が適切な処置や病院受診を行っている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に主治医に相談し、指示を頂いて動いている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には当事業所の「看取り」についての姿勢は伝えている。	早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全職員が受講しており、発生時には対応マニュアルを基に動くことを確認している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回、昼間だけでなく、夜間想定でも行われているが、災害時の地域協力体制は調整中です。救急救命講習は全員受けていて、スプリンクラーは平成22年10月設置。	スプリンクラー、通報装置等の設置が完了している。また、昼夜を想定した避難訓練を実施している。	今後は、緊急時に地域の協力が得られるように、協力体制を構築することを期待します。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りに他利用者がある時は、声のかけ方に注意している。居室には、声かけを行ってから入るなどプライバシーを確保している。	内部研修や日々の業務を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に応じ、自己決定できるような会話を心掛けている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が希望を言いやすい雰囲気、日頃から作る様実施しており、何が食べたいか聞き(おはぎ、芋の塩煮)作って頂いている。又季節に応じて野外へ花見、ドライブへ行っている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は出来る方は自分で選ばれ、不具合な場合は援助している。美容、理容は40日毎に訪問理容を利用し、髪形は本人の意向を尊重している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付けなど、本人の意見を尊重し、職員と一緒にいき、楽しい時間になるよう支援している。	入居年数と共に身体機能が低下してきているが、食事の準備や後片付け等楽しんで行えるよう検討している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の既往症や健康状態や摂取量を記録し、バランスの良い食事を提供している。水分においても夏季はこまめな水分摂取を心がけている。又食事が思うように取れない利用者に対してエンシュア等を提供している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけが必要な人、介助が必要な方を把握し、毎食後に口腔ケアやうがいを実施している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時誘導を心がけている。夜間と日中ではオムツやパット等の使用量を減らすなどの調整もしている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク活動に軽い運動や体操を行ったり、食事に乳製品やせん維質の食物を取り入れている。それでも便秘が解消されない場合は下剤等薬物療法でコントロールしている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせて、ゆったりと入浴していただいている。時々入りたがらない方もあるので、本人の気持ちを聞き出し安心して入浴できる様に努力している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2～3回を目安に支援している。また、拒否の強い本人にも柔軟に支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩、日向ぼっこ、体操、レクリエーション等に参加してもらおうが、夜間精神症状が強く眠れない時は、専門医に相談しながら薬を服用されている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方せんは、職員が見られるところに保管し、医師の指示通り、服薬の支援を行っている。体の状態に応じ主治医や専門医と相談しながら調整を行っている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常、掃除、洗濯物たたみ、食事作りなどすべてにおいて、楽しんで出来る作業を分担し行う事で、利用者自身の役割が認識できている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日光浴や散歩の他に花見、ドライブの機会を増やしている。利用者の気分転換が図れ、季節感を肌で感じる事ができるため、積極的に支援している。</p>	<p>一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や外気浴、畑作業や遊歩道散策等戸外に多く出かけられるように支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している方はいない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望で年賀状を出したり、電話の要望があれば支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度や湿度などの空調管理の配慮は怠らないようにしている。又季節が感じられるよう室内を装飾したり、花を飾るなど工夫をしている。</p>	<p>共用空間(廊下やリビング)は広くゆったりし、窓からは田園風景が見られ、秋には畑の作物や木々の果物を収穫するなど、自然の恵みや季節感を感じられるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では利用者の安全や安心感を十分に確保するために、物の配置や利用者の配席に配慮している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅からタンスや布団、生活用品を持ってきている。部屋には孫の結婚式や、成人式の写真が飾ってある。</p>	<p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>工夫はしているが、利用者本人が「職員にしてもらおう」という意識が強い方もいる。残存能力を発揮してもらおうよう努めていきたい。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100355		
法人名	有限会社 栄友		
事業所名	グループホーム ゆう Bユニット		
所在地	上川郡東川町北町4丁目9番26号		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、大雪山を遠望でき、公園に隣接した立地で広い敷地に畑や遊歩道を設けている。利用者の自立を支援したいという施設長の思いから、リハビリに力を入れており、平行棒を設置し、歩行訓練に力を入れている。また、各居室にトイレを設置し、誘導によるトイレ介助をして、自立を促している。各居室には出窓が設置され、窓の外には実のなる木を植え、その実を秋に収穫することを利用者は楽しみとしている。また、なるべく無農薬の野菜を使用し、朝は玄米食にするなど、利用者にとって良いことはできるだけ取り入れようとする、意欲的な事業所である。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173100355&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングや常日頃から理念に触れ、毎日の生活の中で職員と確認し合っている。申し送りノートを活用し、小さな気づきを全職員が共有し、細部にわたって理念に沿った実践が出来るように努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事には、地域の方々にも参加して頂き、地域の行事にも参加している。又施設で食す米は近所の農家から分けて頂いている。時々色々な方から野菜等頂いている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方に対して、対応方法等説明を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町職員、民生委員、家族、地域住民、職員を構成員として2ヶ月に1度開催されています。会議では、事業所の運営状況や事故報告、行事案内などがなされ、活発な意見交換を通して運営に活かしています。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員とは運営推進会議や町役場に出かけ、ホームの相談等やサービスの質の向上についても話し合っている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏者に対する見守りと職員間の声かけを徹底して、玄関施錠を撤廃し、身体拘束廃止に取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けており、職員間に於いても見過ごされる事がないように防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、学んだ事を活かせるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明や、サービスの内容を説明し理解と同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、また、重要事項説明書に苦情窓口を記載しています。また、家族の来訪時や運営推進会議で家族からの意見要望をお聞きし、利用者からは日常の関わりのなかで、言葉や行動を把握して、運営に反映させています。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや、毎月のスタッフ会議、定例会議で職員の意見や提案を聞き、サービスの向上につなげている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入により、各職員の得意とする分野、努力や成果等を把握し、意欲を持って働いてもらえるように努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や知識、技術レベルに合わせた外部研修、内部研修を実施し、サービスの質の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や包括連絡会議に参加し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時、利用者も緊張や不安が強く、職員との信頼関係も築けていない為、施設内で迷うことのないよう常に目を配り声かけを多くし、安心出来る場所である事を確認して頂く。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申込があると出向いて面接し、家族に対しても何に困っているか聞き、信頼関係を深め、必要な時期に入所できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を伺い、必要とされている事に対し、できる限りの支援に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員が自ら助け合う家族的雰囲気大切にしている。入居者は豊かな人生経験、知識を多く持ち、職員が教えられる事も多い。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事に参加して頂き、本人と一緒に過ごして頂きながら、悩みや要望を聞いている。変わった事が有れば電話連絡をし、対応などを話し合っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃のコミュニケーションの中で、なじみの場所の把握に努め、ドライブに訪れたりしている。以前住んでおられた家の近所の方の面会もある。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく暮らしていける様に、職員が間に入りコミュニケーションを取っている。又孤立しない様に利用者と同関わりようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や依頼があれば適切に対応する。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中での希望、意見はケアの中でくみとり、本人本位で対処している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを、本人や家族より聞き、ホームの暮らしに生かしている。入居される迄、サービス利用の経過や有無も聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、昼、夕の申し送り、一人一人のケース、記録、バイタル、排泄等、心身の状態を確認し、1日の変化等を把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議や定例会議で職員の意見や、家族、本人の要望を取り入れ、計画作成者が介護計画を作成するとともに、モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の日々の状態や状況をみてスタッフの間で話し合い、常に利用者の立場に立って考え行動している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズも違えば、支援内容もプラン内容も違うため、個々の利用者に向けた柔軟な対応を心がけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加して頂き、諸問題を検討し交流を図っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については利用者、家族の意向を尊重した上で、かかりつけ医への受診を支援している。又かかりつけ医との連携を図り、緊急時でも適切な医療が受けられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には利用者がかかりつけ医に相談を行っている。利用者が体調不良の場合は、職場看護師が適切な処置や病院受診を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に主治医に相談し、指示を頂いて動いている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には当事業所の「看取り」についての姿勢は伝えている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全職員が受講しており、発生時には対応マニュアルを基に動くことを確認している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回、昼間だけでなく、夜間想定でも行われているが、災害時の地域協力体制は調整中です。救急救命講習は全員受けていて、スプリンクラーは平成22年10月設置。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りに他利用者がある時は、声のかけ方に注意している。居室には、声かけを行ってから入るなどプライバシーを確保している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に応じ、自己決定できるような会話を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が希望を言いやすい雰囲気、日頃から作る様実施しており、何が食べたいか聞き(おはぎ、芋の塩煮)作って頂いている。又季節に応じて野外へ花見、ドライブへ行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は出来る方は自分で選ばれ、不具合な場合は援助している。美容、理容は40日毎に訪問理容を利用し、髪形は本人の意向を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付けなど、本人の意見を尊重し、職員と一緒にいき、楽しい時間になるよう支援している。			
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の既往症や健康状態や摂取量を記録し、バランスの良い食事を提供している。水分においても夏季はこまめな水分摂取を心がけている。又食事が思うように取れない利用者に対してエンシュア等を提供している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけが必要な人、介助が必要な方を把握し、毎食後に口腔ケアやうがいを実施している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時誘導を心がけている。夜間と日中ではオムツやパット等の使用量を減らすなどの調整もしている。			
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク活動に軽い運動や体操を行ったり、食事に乳製品やせん維質の食物を取り入れている。それでも便秘が解消されない場合は下剤等薬物療法でコントロールしている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせて、ゆったりと入浴していただいている。時々入りたがらない方もあるので、本人の気持ちを聞き出し安心して入浴できる様に努力している。			
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩、日向ぼっこ、体操、レクリエーション等に参加してもらおうが、夜間精神症状が強く眠れない時は、専門医に相談しながら薬を服用されている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方せんは、職員が見られるところに保管し、医師の指示通り、服薬の支援を行っている。体の状態に応じ主治医や専門医と相談しながら調整を行っている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常、掃除、洗濯物たたみ、食事作りなどすべてにおいて、楽しんで出来る作業を分担し行う事で、利用者自身の役割が認識できている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日光浴や散歩の他に花見、ドライブの機会を増やしている。利用者の気分転換が図れ、季節感を肌で感じる事ができるため、積極的に支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している方はいない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望で年賀状を出したり、電話の要望があれば支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度や湿度などの空調管理の配慮は怠らないようにしている。又季節が感じられるよう室内を装飾したり、花を飾るなど工夫をしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では利用者の安全や安心感を十分に確保するために、物の配置や利用者の配席に配慮している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅からタンスや布団、生活用品を持ってきている。部屋には孫の結婚式や、成人式の写真が飾ってある。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>工夫はしているが、利用者本人が「職員にしてもらう」という意識が強い方もいる。残存能力を發揮してもらうよう努めていきたい。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ゆう

作成日: 平成 23年 4月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において災害時の地域協力についての議論の養成が必要である。	緊急連絡網に近所の方にも入って頂き、実際避難訓練に近隣住民が参加する等具体的な改善ができる。	2ヶ月毎の運営推進会議に対し、地道に継続的に取り組んでいく、	6ヶ月
2	35	災害時職員だけの誘導には限界があるが、地域の協力関係がまだ構築されていない。	災害時に協力して頂く体制を構築する。	8月に開催する夏祭りの際に、チラシ・パンフレットで消防訓練の参加を要請する。 近隣町内会の協力員に協力の要請をする。	12ヶ月
3	10	家族に毎月事業所全体の様子を便りでは知らせているが、一人一人の様子を伝えきれていない。	一人一人の生活状況の様子を報告する事により近況報告ができる。	毎月の通信で一人ひとりの生活の様子を伝えていく。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。